



2026
No.517

障害者の ゆたかな未来をめざして

2



「街中を走るみんなのバス」なるみ作業所 棚橋 智さん
※紹介が10ページにあります。

CONTENTS

- ▶ 能登半島被災地支援 P2～3
- ▶ 私たち成人式を迎えました！ P11～12

2026年2月15日 毎月1回15日発行 一部200円（法人会員・賛助会員は会費の中に購読料を含みます）

発行 / 社会福祉法人ゆたか福祉会

〒457-0852 名古屋市南区泉楽通四丁目5番地3
TEL 052-698-7356 FAX 052-698-7358

ゆたか福祉会

検索



ゆたか福祉会HP 公式Xアカウント



愛知県ファミリー・フレンドリー・マーク

能登半島被災地支援

～未だ復興途上、復興への歩みは遅く～

能登半島地震から丸2年が過ぎました。

今回は2025年10月以降に参加した職員の“声”を紹介します。



堤防外側に作られた
道路から見える以前の道路標識

ゆたか生活支援事業所みなみ 岩崎 誠 第70クール(10月5日～)

奥能登の視察では海底だった場所が隆起し、かつての堤防の外側に作られた道路を通ると、カーナビ上では海の上を走っているように表示されました。自然の力の大きさと、その前に立つ人間の無力さを強く実感しました。見附島の姿も大きく変わり、震災前の大きな頃の写真を見ても、元の姿が想像つかないほどでした。

震災から2年が経過した現在も、倒壊した建物が多く残るなど、未だ復興の途上であることを強く感じました。派遣先のB型作業所「ゆうの丘」では、買い物かごの洗浄や店舗移転に伴う引っ越し作業を行いました。またバスが不通になった方の通院、買い物支援では自己紹介をすると「岩崎宏美さんね」と言われて、それからは親しみを持って「岩崎宏美さん」と呼んでくださいました。

全国から集まった老若男女のスタッフとの毎日の楽しい共同生活を通じて、新たなつながりや多くの学びも得ることができました。今回の派遣は支援をする側としてだけでなく、近い将来起こるとされる東海・東南海地震において、自分が支援を受ける立場になった時の視点を学ぶ貴重な経験にもなりました。

みらいろ 小林 稜汰 第71クール(10月13日～)

～1年半が経過した能登半島に触れて～

被災状況の視察では、1年半経過した今でもガタガタした歩道や荒れた山肌など、痛々しく影響が残っていたことが印象的でした。一方で、整備された道路が随所にみられ、「優先すべきところから一歩ずつ歩まれてきたのだ」ということが想像されました。



いつか公費解体されてしまう旅館

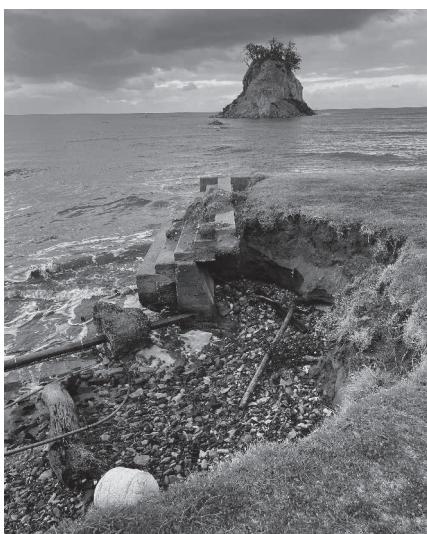
実際の支援では日中事業所で厨房の補助と、現場支援を担当させていただきました。そこでは、環境が変わっても今を楽しもうとする利用者さんの姿が印象的でした。職員さんからは、これまでの苦労を語っていただきました。

「震災によりできなくなってしまった取り組みがある」こと。現在の職員の中には震災後に入職した方も多く、「不安な中で日々取り組んでいる」ことなど様々です。しかし同時に、「何とかやってこられた」という自信や、「今できる支援を！」と奮闘される職員さんの力強い気持ちにも触れられたように思います。

1週間という期間は短く、「慣れてきたころには終わってしまう」というのが、体験した正直な感想です。一度行ったからには「もっとやりたかった」という気持ちになりました。力になっていたら幸いですが、それ以上に、支援に関わった一人として、感じたことを周りに伝え、少しでも能登半島の支えとなれるよう、応援を続けていけたらと思います。



倒壊した酒蔵



地震の爪痕を残す海岸線と形の変わった見附島

デイサービス宝南 阿部 直美 第75クール（11月9日～）

自宅から約6時間をかけて能登へ向かいました。到着早々、降車場所を間違えるという波乱のスタートとなり、雨の中20分以上歩くことに…。スーツケースを引く歩道の凹凸から、地震の爪痕を肌で感じることが出来ました。

今クールは人手が十分に集まらなかったようで、到着初日はスタッフマネージャーを含めわずか3名体制でした。2日目の視察では、能登半島の広さや厳しい道路状況、復興が思うように進まない現実を目の当たりにしました。それでも、歩みは遅くとも確かに前に進んでいることを感じました。

その後二日間は、「一期一笑」さんの支援に入りました。「震災後に入職された職員さんがほとんど…」との事で、ご自身も仮設住宅での生活を経験しながら現場を支えておられます。「利用者さんが落ち着いて過ごせているから、私たちも働けています」という言葉が強く心に残りました。雑巾縫いや買い物支援、似顔絵のプレゼントなど、短い時間ながら温かな交流がありました。

復興への歩みは遅く、過疎化・高齢化など課題は山積みですが、そこに暮らしき続けたい人がいます。「自分にできることは小さくても、寄り添い続けたい」そう強く感じた能登での支援でした。「ありがとう！能登」「ありがとう！第75クール」「ありがとう！送り出してくれた職場の皆さん」

リサイクルみなみ作業所 大野 歌織 第79クール（12月7日～）

～能登被災地支援に参加して～

79クールで参加しました。事業所でメンバーさんと作業をしたり、通所や通院の送迎を担ったりしました。事業所から、車で片道約30分の通院送迎を担当した際、病院でお会いした手話通訳の方が、一緒に行った聴覚障害のあるメンバーさんの手話を訳して下さいました。「地震で病院近くにあった自宅が崩れてしまい、自販機が流れるくらいの津波が来た。事業所の隣の仮設住宅で暮らす事になった。それまでは送迎車で通所していた。親戚や近所の人たちは今どうしているのか」と…。

その後、「馴染のスーパーへ行きたい」と要望があり、二人で立ち寄りました。店員さんが「どうしていたの？」と駆け寄ってきました。ご自宅の被害を説明し、私を紹介して下さり、店員さんより「○○さんを、よろしくお願いします」とご挨拶頂きました。

皆さんが心配しあっていること。人と人との繋がりの大切さと温かさ、そして親しい人と会えない辛さが伝わってきました。帰り道、涙ぐみながらご自宅の周りを案内して下さいました。「ここに自宅があった。倒れてしまった。この家も、この家も…」と。

出会った方々の多くが、仮設住宅での生活を続けていました。お話を伺い、心中を思うと言葉が見つかりませんでした。どの方もスタッフにとても親切に接して下さり、「遠くからでもできる事をしたい」「ここで出会った皆さんとの繋がりを終わらせたくない」と思いました。



仮設住宅



歩道

暮らしの中に彩りを

11/29

土

日帰り旅行 リサイクル港作業所

岐阜県長良川方面に日帰り旅行に出掛けました。家族会と合同の総勢38名の参加でした。大型バス1台とリフトカー1台に分かれ、期待で膨らむ笑顔を乗せて出発！実行委員が用意したクイズは、行き先の興味を引き出す内容でした。

「アクア・トトぎふ」は、グループに分かれ館内を散策。長良川に棲む魚や、世界の国の川や池等に生息している変わった魚、カワウソやカビバラのような川辺の動物を見て楽しました。水槽の最前列で餌やりを見ていた仲間の、普段は見られない表情を見ることができ、嬉しくなりました。

昼食はホテルパークで旬の食材を使った料理や鮎の塩焼き等、豪華な料理をいただきました。帰り道のバスでは大カラオケ大会。家族から驚きの声が上がるほど、予約が次々と寄せられ、満足一杯の取り組みとなりました。日帰り旅行は、集団意識を育み、より一丸となって資源選別作業に取り組むための交流・共有の場となっていると感じました。

大橋 拓真



12/20

土

まーぶる食堂開催！ まーぶる

当日はあいにくの空模様にも関わらず、100人近い地域の方々が足を運んでくださいました。これまでまーぶる内で開催していましたが、法人内での協力の輪が広がり、まーぶるよりも広いスペースが確保出来るお隣のゆたか作業所の食堂とデイ現場をお借りして開催しました。

前回「美味しかった」と好評だった金沢カレーと一緒に、ポテトとワインナーをワンプレートで提供しました。クリスマスが近い事もあり、ソフトクリームやロールケーキ、チョコバナナも作り、サイダーと一緒に提供、来場した子供たちは大変喜んでいました。

また、初回よりご協力頂いているサンシャインKYOURAKU南店様からはお菓子をご寄付いただきました。「お菓子釣り」を実施し、子供たちの楽しみにも繋がっています。

さらに今回は、南区社会福祉協議会様の紹介で、NPO法人「人生と健康の縁結び」から、管理栄養士の中田様が来所されました。食育についてのお話と、政府の備蓄米1キロの配布が行われました。思いがけないお米のプレゼントに、皆さん大変喜ばれていました。

開催を重ねるごとに規模が拡大し、1つのイベントとして定着しつつありますが、まーぶるの職員のみでの開催にはやはり限界があります。今回は、後藤理事長をはじめ、法人内の多数の事業所職員や仲間達の他、大同大学、中部大学のボランティアサークルから、10名程の学生さんにおいでいただきました。

今後も法人内事業所へ協力を願いしつつ、ゆたか福祉会としてこの地域の方々とのつながりを大切に築いていきたいと思っています。

地域生活支援拠点事業所まーぶる
所長 西原 恵美



12/
5~6

金土

ゆたか生活支援事業所なるお



～念願のレゴランド旅行～

コロナ禍で仲間の希望する旅行が実現できなかった数年を経て、今回はグループホーム毎ではなく、それぞれの要望に沿った少人数旅行を企画しました。

「レゴランドのホテルに泊まってみたい」鳴尾ホームのじゅんこさんと、「遊園地の乗り物が大好き」なゆたか鳴尾寮のあいこさんでレゴランド旅行に行つてきました。

レゴランドホテルに宿泊したこと、2日間園内をゆっくり見て回ることができ、またジェットコースターやコーヒーカップ、メリーゴーランドなど、2人の好きな乗り物にもたくさん乗ることができました。夜には、レゴランドホテルに宿泊した人だけが参加できるナイトシーランドを楽しみました。



宿泊した部屋には謎解きがあったり、夕食のレストランでスタッフにシールをもらったり、宿泊することでしか楽しめない体験もたくさんありました。帰ってきてからも、「よかったね」「楽しかったね」とホーム夜勤者に旅行の思い出を笑顔で話されていました。振り返って語れる充実した旅行になりました。

丹羽 晴香

12/29

月

忘年会 つゆはし作業所（きらきら班）



年内最後の出勤日に、日頃の労をねぎらう場として忘年会をおこないました。きらきら班では、スクリーンを用意して2025年に取り組んだイベントや、日常のなか私たちの写真を映しだし、振り返りました。自然と「こんなこともやったね!」「もう一年経つの?」「楽しかったよね。またやりたいね!」などと言葉が飛び交いました。



改めて、皆さんと様々な経験をし、たくさんの出会いがあったことがわかりました。また、笑顔で写っている写真が多くたですが、苦労や変化もたくさんある中、「2025年も皆で力を合わせて過ごすことができたんだな」と感じました。

2026年も、これまでの経験を活かして、輝ける年にしたいと思います。

河合 みづほ



1/17

土

新年会 あかつき共同作業所



～幸せいっぱいの新年会～

1月17日、尾張事業本部あかつき新年会が行われました。「あかつき共同作業所」と、「あかつきヘルパーステーションはなキリン」、「ゆたか生活支援事業所尾張」との合同行事です。仲間・ご家族・職員、総勢68名が参加しました。

コロナ禍を経て、6年ぶりのホテル宴会場での盛大な開催。仲間の皆さんのが何より嬉しいのは、ホテルならではの豪華なコース料理です。前菜からデザートまでおいしい料理を堪能しました。新年会の内容としては、作業所各班の仲間・職員、各事業所、親の会の新年挨拶、そしてメイン企画として、還暦を迎えた仲間2名のお祝いと、生活支援事業所尾張所長の結婚祝いを行いました。

還暦祝いではそれぞれの60年を写真で振り返りました。お二人の歴史の重みを感じ、これからもお二人が望む人生を歩むことができるよう、真摯に支援に臨みたいと思いました。お祝い企画が二つもあり、会場全体が幸せな空気に包まれた新年会となりました。

吉見 智子





キラリンの初詣 キラリンとーぶ

キラリンとーぶでは、毎年恒例の年始の取り組みとして初詣を行っています。以前は近隣の神社に出かけてお参りをしていましたが、近年は歩行が不安定な方や車椅子を利用される方が増え、外にお参りに行くことが難しくなってきました。そこで、初詣は施設内に神社を設営することになっています。職員が手作りした鳥居や賽銭箱、おみくじなど、工夫を凝らし「キラリン神社」が完成です。

新年を迎え、利用者さんと職員も一緒に「今年も良い年になりますように」と手を合わせ、願いを込めてお参りしました。お参りの後はお楽しみ



の運試し。手作りのおみくじを引き「何が出たかな?」「大吉!」といった声が聞かれ皆さん楽しまれていました。また温かいお汁粉をいただき、ゆったりとした新年のひとときを過ごしました。

施設内で安心して初詣を楽しめるこの企画は、利用者さんからも好評です。これからも皆さん笑顔で過ごせるよう取り組んでいきます。

今泉 徹也



新年の取り組み グループホーム宝南の家

私たちの事業所では、毎年恒例の手作りおせち料理で新年を迎えます。普段とは違う器に彩りよく盛り付けられたおせちの蓋を開けると、皆さまからは感嘆の声が上がります。「昔はよく作ったよ」と思い出話にも花が咲きます。年末には、餅つきで作った鏡餅を飾り、花もちを作り、お花を生けるなど、新年に向けた準備も欠かせません。

以前は初詣に行き、参拝後に回転寿司へ行くのが恒例でした。しかし近年は運転手不足のため、

3つのグループに分かれて初詣に出かけ、ホームでゆっくり食事を楽しんでいます。今年は気温が上がる午後から、近くの松水神社へ参拝し、皆さまの一年の健康を祈願しました。

三が日は、かるたや福笑いなど、お正月ならではの遊びで盛り上ります。毎年行う書初めでは、「何を書こうかな」「苦手だけど頑張るよ」と話しながら、職員のお手本を見て丁寧に筆を運ばれます。今年も皆さまが元気に楽しく過ごせる一年となりますように。

松尾 陽子



12/03
Wed

きょうされん愛知支部

がんばるデイ



名古屋駅西口にて第49次国会請願署名街頭署名（がんばるデイ）の取り組みを実施しました。がんばるデイは、障害のある人たちの暮らしや働く現場の実態、そして私たちが直面している制度や支援の課題を、地域や社会に伝える行動です。

当日は、利用者・家族・職員120名以上がそれぞれの立場から声を届け、対話や呼びかけを行いました。

現場からは、物価高騰の影響が日々の暮らしや事業運営に大きな負担となっていること。重度化・高齢化が進むなかで支援体制が追いついていない現状。そして人材不足が支援の継続を脅かしていることなど、切実な声が寄せられました。一方で、通行人の方々からは、「実情を初めて知った」といった反応もあり、社会に伝える意義を改めて実感する一日となりました。

今回のがんばるデイは、声を上げることが制度や社会を動かす力になることを再確認する機会でもありました。引き続き、日々の実践を大切にしながら、当事者の願いに根ざした運動を積み重ね、誰もが安心して暮らせる社会の実現を目指していきます。

「ライフサポートゆたか

所長 今治信一郎

ゆたか希望の家
職員 桑野紘佑

「ぼくたちの思いを
どどけたい!!」

仲間1名と職員で参加しました。会場に到着した当初は、たくさんの人や雰囲気に緊張している様子だったAさん。時間が経つにつれて職員が声を掛けなくても署名や募金を自ら訴え、積極的に前へ出て活動に取り組むようになっていました。作業所の中とは違った一面を見ることができました。

ご本人が曰うる希望されている「グループホームへの入居」や「ヘルパーを利用してショートドライブに行きたい」といった願いと、この運動が結びついているようでした。「事前に学習した結果ではないか」と感じました。終了後には、「思いを伝えることが出来ました!」と晴れ晴れとした表情で感想を話されました。Aさんの思いがたくさんの人たちに伝わっていると良いと思います。

引き続き、仲間の思いや願いを叶えるため、作業所でも一人ひとり力を合わせて頑張っていきたいと思います。

ワークセンターフレンズ星崎
職員 永田美佳



署名活動を通して、障害のある仲間たちが障害のない人たちと同じように生活できるよう、また障害のある人たちの人権が守られ、安心した生活が送れるよう我々職員も考えていかなければならぬと思いました。

ゆたか希望の家
職員 桑野紘佑

11/17
Fri

名古屋市 行政懇談会



11月17日、北区総合福祉会館にて名古屋市行政懇談会が開催され、障害当事者、家族、支援職員あわせて約100名が参加しました。

暮らいや日中活動、相談支援、将来への不安など、現場の切実な声が直接行政に届けられ、活発な意見交換が行われました。

当事者の体験に基づく発言は、制度の狭間や支援の不足を浮き彫りにし、参加者から共感と連帯の声が広がりました。

今後も対話を重ね、誰もが安心して地域で暮らせる施策につなげていくことの重要性を確認しました。

ライフサポートゆたか
今治信一郎

今回参加できなかつた仲間たちにも、私たちの要求内容を共有し、今後の自治会活動に繋げていきたいと思います。

ワークセンターフレンズ星崎
職員 鈴木沙也加

参加者の声

フレンズ星崎からは、自治会役員2名が代表として参加し、仕事に関して

①丁寧な作業を行つて

いる事業所がたくさんあるので、もっと活用して欲しいことをぜひ見に来て欲しいこと

の2点を伝えました。

多くの行政職員の方を前に、発言前からとても緊張されている様子が伺えました。それでも発言者として呼ばれるとき堂々と前に立ち、思いを伝えられています。

終了後にはお二人から、「とても緊張しました。また、自分たちの発言が終わってからも、他の仲間たちの発言に真剣な表情で耳を傾け、参加する姿が見られました。

軽度対象が多く、強度行動障害や重度の受け先は増えているのが実態です。「数だけで数量規制」?と言われても実情にあつていません。



家族からの発言

国は「入所施設は新設しない」と、地域移行して削減目標を謳っています。しかし、その地域生活が現状「サービスがまったく足りていない実態」にあります。グループホームの事業所数は増えていますが、

リサイクルみなみ作業所
保護者 浅野美子



12/10
Wed

愛知県 行政懇談会

12/10 きょうせん愛知支部と
愛知県障害福祉課との
行政懇談会 開催

当日は、障害当事者や家族、支援現場で働く職員など約70名が参加し、愛知県の障害福祉策や地域生活をめぐる課題について意見交換を行いました。県からは11名の参加がありました。

会場では、日々の暮らしの中で感じている支援の不足や制度の使いにくさ、物価高騰や人材不足が現場に及ぼす影響など、率直な声が数多く出されました。

障害当事者からは、「グループホームやヘルパーなど利用したくても利用できない」「職員をもっと増やしてほしい」等の生活や現場の中での困りごとが率直に出されました。

今後も継続的な意見交換を通じて、誰もが安心して地域で暮らし続けられる様取り組んでいきたいと思います。

所長 今治信一郎



ゆたか生活支援事業所尾張

所長 大田哲嗣

参加者の声



職員からは、基本報酬の厳しさと人材不足の喫緊の課題など、現状を訴えました。また、9月の県職員による障害者虐待容認の発言については、県から謝罪がありました。職員からは、「障害のある方への権利擁護意識の向上」を訴えました。

愛知県からは、「国へ、今日聞いた要望の声をしつかり届けていく」ことをお話しいた

だきました。愛知県独自の政策などは具体的には難しいですが、これからも要求を届けていき、運動をとおして、県と共に、障害のある人の暮らしについて考えていきたいと

思います。

ライフサポートゆたか

利用者部会「やろまい会」では、あかつき共同作業所の加藤さんが司会を元気よく行いました。そして自治会連合会会長の石橋さんと一緒に「給料を上げてほしい」「職員を増やしてほしい」など、仲間たちの想いをつめこんだ要望書を県の職員に手渡しました。

ご家族からは、障害年金でのグループホームでの生活の厳しさと、親亡き後の心配、グループホームがまだまだ必要なこと。職員不足や移動支援の拡充についての訴えがありました。

職員からは、データを基に説明しました。重度障害のある方の利用比率が高く、必要とされる支援量が介護保険利用者と比べて著しく多いという、日々の現場で直面している実態をお伝えしました。

共生型の報酬単価は、高齢者デイサー

ビスを基準に要介護3程度を想定して設定されています。しかし、実際の利用者の多くは障害支援区分5や6に該当し、職員の手厚い配置や専門的な支援が不可欠です。この制度設計と現場実態との大きな乖離は、支援の質や事業の継続にも直結する深刻な課題です。

こうした点を強く訴えましたが、愛知県からの回答は形式的な説明にとどまり、現場の切実さが十分に受け止められたとは言い難いものでした。それでも私たちには、現場の声をあきらめずに伝え続けることこそが、制度を動かす力になると信じています。障害のあるながたちが、地域で安心して暮らし続けられるよう、今後も粘り強く声を上げ続けていきます。

デイサービス宝南

所長 阿部直美

実態を訴えました!



Zoomで参加しました。事前に提出した要望書の内容に加え、「デイサービス宝南における共生型生活介護の利用状況」について、具体

的なデータを基に説明しました。重度障害のある方の利用比率が高く、必要とされる支援量が介護保険利用者と比べて著しく多いという、日々の現場で直面している実態をお伝えしました。

共生型の報酬単価は、高齢者デイサー

わたくしたち成人式を迎えた!



リサイクルみなみ作業所 荒川 拓海さん

昨年11月29日、荒川拓海さんの成人を祝う会が行われました。お祝いの会当日には、お父様とお母様、リサイクルみなみのなかまたちと職員が集まり、新しい一步を踏み出す荒川さんを和気あいあいとした雰囲気の中でお祝いしました。

会のハイライトのひとつは、荒川さんが高等部時代に大好きだった先生方からのビデオレターでした。恩師から、在学当時の思い出や優しい激励の言葉をいただき、ご本人からも思わず笑みがこぼれています。

そして、荒川さん自ら筆をとり、決意表明を披露されました。力強く筆で書かれたその決意は、飾らない五文字。「さけをのむ」。この宣言には、大人への憧れとユーモアが込められており、会場は大いに盛り上がり、笑いと祝福の拍手が響き渡りました。なかまたちからは「虹」と「おくりもの」の歌を送り、和やかに会を終えました。これからも荒川さんが、この日を忘れず、笑顔あふれる豊かな人生を歩まれることを楽しみに、傍らから応援したいと思います。

お母さま からの メッセージ

リサイクルみなみに通わせていただき、もうすぐ2年になります。「今日はこんなことをしたよ」と嬉しそうに話してくれる息子の姿を見ていると、とても嬉しく思います。職員の皆様、なかまの皆様には温かく見守っていただき、心から感謝しています。

まわりの方々に支えていただき、こうして無事に成人を迎える喜びとともに、「親になって20年、やっと20年、まだまだ20年…」と、いろいろな思いが込み上げています。

新しい環境やはじめてのことが苦手な息子が少しずつ、はじめての事にもチャレンジする姿が最近は見られるようになってきました。そんな息子と共に「私たちも成長しなくては…」と、改めて感じています。

旅行、DIY、掃除など、好きなことがいっぱいの息子と、これからもたくさんのことにチャレンジし「たくさん楽しんでいいからいいな」と思っています。拓くん成人おめでとう。これからも感謝の気持ちを忘れず、お仕事がんばってね。応援しています。

母 荒川香奈恵



ゆたか通勤寮 春口 義明さん

本人のコメント

通勤寮に来てから、生活のリズム、貯金を頑張っている。新成人の抱負として、仕事!!貯金!!健康!!の3つの柱でがんばる。

職員より

成人おめでとうございます。通勤寮利用と就労開始から2年が経過しようとしています。大府もちのき特別支援学校を卒業してから、JERAミライフルでの仕事を続けています。暑い日も寒い日も外での作業が多いですが、休まずに頑張っています。2年目になり、今では後輩や実習生に教える立場として、職場でもとても頼りにされています。

通勤寮でも先輩として、今年度は自治会の副会長になりました。リーダーとして皆を引っ張ってくれることも増えました。穏やかな性格といつもニコニコしている姿から、他の人達からも慕われています。

新成人になった今年は、通勤寮の利用最終年もあり、次の生活に向けての準備も始まっています。目標に向かってこの調子で一緒に頑張っていきましょう。

わたしたち成人式を迎えた!

みらいろ 松木 裕斗さん

家族
から

小さい頃はおとなしい子で人見知りでした。成長するにつれ、周りの人に自分から声をかけることができるようになり、学校では司会を務めるなど、人前に出ることが出来るようになりました。



学校を休むこともあったので、みらいろにちゃんと通えるか不安でしたが、工賃をもらうために仕事を頑張ろうとしています。社会人としての自覚が少しずつ育ってきたように感じています。休む日もありますが、休んだことを気にして「次の日にはみらいろへ行こう」と気持ちを切り替えることができるようになりました。その姿に「大人になったな」と感じています。

今後は、必要なサポートを受けながら、本人が幸せに生きていけることを願っています。

職員
より

歯ブラシやボディタオルを袋に入れる「アメニティ」の作業が好きです。アメニティが始まると、“アンパンマンのマーク”のリズムに合わせ「あ～あ～♪アメニティーマン～♪」と、自分で作った替え歌を口ずさみます。作業を切り替えるときも、「○○マヘン！」と役になりきって楽しく仕事に取り組んでいます。気持ちが乗らないときも「段ボールマーク！」と声掛けすると、「段ボールマンやる！」と切り替えることができます。「○個出来た！絶対に負けない！」と自分の決めた目標に向かって作業に取り組んでいます。達成できない日も時々ありますが、分かりやすく悔しがる姿が見られ、それでもあきらめず「次も頑張ろう！」と自分と向き合おうとしています。

声優、アイドル、ゲームなど好きなものがたくさんあり、休憩中は夢中になりながらも時間を気にしながら話をしています。お気に入りのフレーズがあり、それを「職員に言って欲しい」と要求することがあります。日によって内容は変わりますが、「今日



はどんなフレーズがくるのか？」と職員はワクワクして待つようになっています。そのやり取りを見てみんなが笑顔になり、周りには常に笑い声が広がっています。

そんな松木さんには「好きな声優に東京で会う！」という大きな夢があります。好きなことのために一生懸命になれる松木さん！これからも夢に向かって頑張りましょう！

なるみ作業所 河本 翔一さん

河本さんは、2024年4月に利用を開始されてから、2年間にわたり「ウルトラ班」で活動されています。

入所当初から「新入り」とは思えないほど落ち着いた雰囲気があり、作業や活動にも意欲的に取り組まれてきました。作業のスピードも日に日に向上し、日々の成長を感じられます。また、持ち前の人懐っこさと穏やかさで自然と周囲に人が集まり、作業所の班の雰囲気を明るくしてくれる存在です。

作業所の成人式では、凛としたスーツ姿で参加され、利用者さんや職員から多くの祝福を受けました。現在は週の半分を別の事業所で過ごされている河本さん。「今日は翔一さんが来る日だね」と楽しみにする声が聞かれるほど、みなさんに親しまれています。

これからもなるみ作業所でたくさん笑い、楽しい時間を一緒に過ごしていくたらと思います。改めまして、ご成人おめでとうございます。

お母さま
からの
メッセージ

翔一さん、成人おめでとう。

みんなにおめでとうって言われるけど、何がおめでとうなんだろう？だよね。

生まれて20年たちました。

小さい頃からきょうだいと一緒にいっぱい遊んで、いっぱい体験して、いっぱいおでかけしてきました。どれだけ覚えているかな？

母は子ども3人といろんなことがたくさんできてたくさん思い出ができました。ありがとうございます。

時間とともに体はどんどん大きくなって、今ではすっかり男性の理想のサイズになりました。できること、わかることはとてもゆっくりだけどふえました。



今となっては、自分から周りの様子や母の感情をくみとることもできたり、自然に覚えてお手伝いしたりできることがあるよね。

サラっと手荷物を持ってくれたときには、きっとモテただろうなあ～とよく思っています。

心はずっと純粋なままで、そんなマイペースでピュアな心に、今も癒されることがあります。

今まで周りの環境や周りの人たちにめぐまれた生活をしてこられたのは、きっとそのピュアな心のおかげ。これからもこのピュアな心は持ったまま、いろいろなことをがんばっていきましょう。

母より